

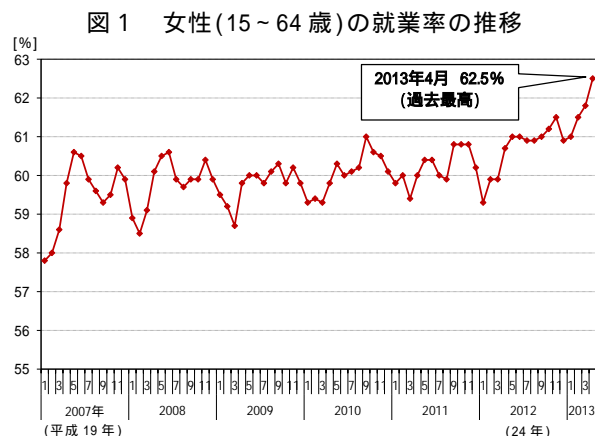
女性(15～64歳)の就業率の上昇

15～64歳の女性の就業率は、近年の女性の就業意欲の高まりを背景に、2013年(平成25年)4月に62.5%と過去最高を更新しましたので、その特徴を見てみます。
比較可能な1968年(昭和43年)以降

女性(15～64歳)の就業率が62%を超え、過去最高

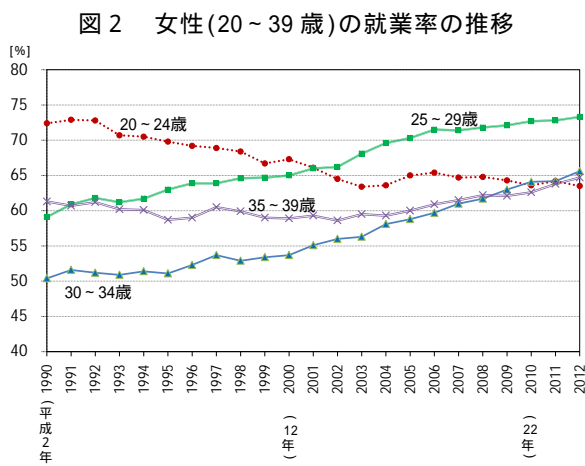
2013年4月の女性の就業率は62.5%と、初めて62%を超え、過去最高となりました。

女性の就業率は、2007年5月に60.6%と60%を超えて以降、60%前後を推移し、2013年3月に61.8%と過去最高となり、4月も引き続き上昇傾向が続いた結果、過去最高を更新しました(図1)。



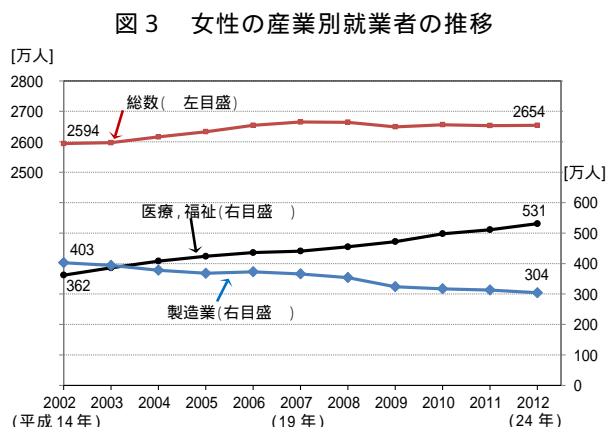
20代後半、30代で特に上昇

女性の就業率上昇について、その傾向を把握するため、1990年から2012年までの変化の大きかった年齢階級を見てみると、2012年は1990年に比べ、30～34歳で15.2ポイントと最も上昇し、次いで25～29歳で14.2ポイント上昇しています。また、35～39歳でも3.4ポイント上昇しています(図2)。



産業別には、「医療、福祉」が増加

最後に、女性の就業者(15歳以上)を産業別に2002年から2012年までの10年間の変化を比較してみると、総数は60万人の増加(2002年:2594万人 2012年:2654万人)でした。そのうち、最も増加した産業は、「医療、福祉」で169万人の増加(362万人 531万人)、最も減少した産業は、製造業で99万人の減少(403万人 304万人)となりました(図3)。



(参考) データ・資料はこちら

【図1・2に関連する結果表】

[年齢階級\(5歳階級\)別就業者数及び就業率 \(長期時系列表3\(3\)\)](#)

【図3に関連する結果表】

[第12回改定日本標準産業分類別就業者数 \(長期時系列表5\(1\)\)](#)

(2013年5月31日掲載)